

古文ドリル：副助詞「だに・すら・さへ」識別 100問

対象：高校生・大学受験生 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「だに・すら・さへ」の違い

副助詞「だに・すら・さへ」は、**3つの違い**が混同されやすい入試頻出語。

副助詞	意味	訳
だに	最小限の限定／類推	せめて～だけでも／～さえ
すら	類推（軽い→重い）	～できえ
さへ	添加	～までも

使い分けの鉄則

「だに」

- 軽いものを挙げて、重いものを推測 → 類推
- 「せめて～だけでも」と願望

例：

光だに見えず。「光さえ見えない」（暗闇の表現）

「すら」

- 「だに」と類推の意味で重なる
- ただし「すら」のほうが古い言い方

例：

神すらかしこむ。「神できえ恐れ敬う」

「さへ」

- すでにあるものに **加えて** 別のものも
- 「～までも」

例：

雨降り、風さへ吹く。「雨が降って、風までも吹く」

識別の鉄則

1. 「だに」「すら」 → 類推（～でさえ）
2. 「さへ」 → 添加（～までも）
3. 「だに」は 願望表現 と結びつく（せめて～だけでも）
4. 下に願望（ばや・なむ・もがな）があれば「だに」の「最小限の限定」用法

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは 試験本番で3秒で答えを出す ための実戦テクニックです。

コツ① 「さへ」を見たら即「までも」（添加）で確定

3つのうち「さへ」だけは別物（添加）。文中に「さへ」を発見したら、他を考えず「～までも」と訳す。例：「風さへ吹く」→「風までも吹く」

コツ② 「だに」は下に願望があるか即チェック

「だに」の後ろを見て： - 下に 願望（ばや・なむ・もがな・てしがな）／命令／意志 → 「せめて～だけでも」 - それ以外 → 「～でさえ」（類推）

例：「一目だに見せばや」→ 願望あり → 「せめて一目だけでも」

コツ③ 「すら」は古い言い方の「さえ」で固定

「すら」は迷ったら 必ず「～でさえ」で訳す。用法分岐はほぼなし。例：「神すらかしこむ」→「神でさえ恐れ敬う」

コツ④ 「さへ」と「だに」を入れ替えて意味が通るか試す

- 「だに／すら」 = 「さえ」と入れ替えてOK（類推）
- 「さへ」 = 「までも」で入れ替えてOK（添加） 判別に迷ったら 訳語を当ててみる のが最速。

試験本番でのチェック順序

1. 「だに／すら／さへ」のどれかを特定
2. 「さへ」ならその場で「までも」確定

3. 「**だに**」なら下に願望があるかチェック → あれば「せめて～だけでも」、なければ「～でさえ」
 4. 「**すら**」なら「～でさえ」で固定
- この順番で **3秒** で答えが出ます。

よくある引っかけ

- 「さへ」を「～でさえ」と訳してしまう → 古文では添加「までも」
- 「だに」を全部「～でさえ」と訳す → 願望が下にあれば「せめて～だけでも」
- 「すら」と「さへ」を同じだと思って混同 → 「すら」=類推、「さへ」=添加

採点表

- 基礎 (Q1～Q20) : /20
- 標準 (Q21～Q50) : /30
- 応用 (Q51～Q80) : /30
- 入試レベル (Q81～Q100) : /20
- 合計 : /100

【第1部】基礎編 (Q1～Q20)

Q1. 副助詞を識別せよ。

光**だに**見えず。

答え：副助詞「だに」（類推） **解説**：「光さえ見えない」。最小限のものすら見えない=完全な暗闇。

Q2. 識別せよ。

神**すら**かしこむ。

答え：副助詞「すら」（類推） **解説**：「神でさえ恐れ敬う」。神すら→人間ならなおさら。

Q3. 識別せよ。

雨降り、風**さへ**吹く。

答え：副助詞「さへ」（添加） 解説：「雨に加えて、風までも吹く」。

Q4. 識別せよ。

命だに惜しからず。

答え：副助詞「だに」（類推） 解説：「命さえ惜しくない」。最も大事なもの＝命を例に。

Q5. 識別せよ。

心ある人すら知らず。

答え：副助詞「すら」（類推） 解説：「心ある人でさえ知らない」。

Q6. 識別せよ。

月明け、星さへ出づ。

答え：副助詞「さへ」（添加） 解説：「月が明けて、星までも出る」。

Q7. 識別せよ。

一夜だに眠られず。

答え：副助詞「だに」（最小限） 解説：「せめて一夜だけでも眠れない」。

Q8. 識別せよ。

親すら子を捨つ。

答え：副助詞「すら」（類推） 解説：「親でさえ子を捨てる」。

Q9. 識別せよ。

花散り、葉さへ落つ。

答え：副助詞「さへ」（添加） 解説：「花が散って、葉までも落ちる」。

Q10. 識別せよ。

一言**だに**告げず。

答え：副助詞「だに」（最小限） **解説**：「ひと言さえ告げない」。

Q11. 識別せよ。

仏**すら**迷ふ。

答え：副助詞「すら」（類推） **解説**：「仏でさえ迷う」。

Q12. 識別せよ。

寒く、雪**さへ**降る。

答え：副助詞「さへ」（添加） **解説**：「寒くて、雪までも降る」。

Q13. 識別せよ。

せめて一度**だに**会はなまし。

答え：副助詞「だに」（願望・最小限） **解説**：「せめて一度だけでも会いたいなあ」。下に願望表現「なまし」あり。

Q14. 識別せよ。

鳥**すら**鳴かず。

答え：副助詞「すら」（類推） **解説**：「鳥でさえ鳴かない」。

Q15. 識別せよ。

嵐の音、地**さへ**揺るがす。

答え：副助詞「さへ」（添加） **解説**：「嵐の音が、地までも揺らぐ」。

Q16. 識別せよ。

我**だに**知らねば、誰かは知らむ。

答え：副助詞「だに」（類推） 解説：「私でさえ知らないので、誰が知ろうか」。

Q17. 識別せよ。

君**すら**心通はず。

答え：副助詞「すら」（類推） 解説：「君でさえ心が通わない」。

Q18. 識別せよ。

病、心**さへ**痛む。

答え：副助詞「さへ」（添加） 解説：「病に加えて、心までも痛む」。

Q19. 識別せよ。

ひと滴**だに**雨降らず。

答え：副助詞「だに」（最小限） 解説：「ひと滴さえ雨が降らない」。

Q20. 識別せよ。

風吹き、霜**さへ**置く。

答え：副助詞「さへ」（添加） 解説：「風が吹いて、霜までも置く」。

基礎編 / 20

【第2部】標準編（Q21～Q50）

Q21. 識別せよ。

せめて夢に**だに**見えなむ。

答え：副助詞「だに」（最小限の願望） 解説：「せめて夢にだけでも見えてほしい」。下に願望「なむ」あり。

Q22. 識別せよ。

賢人すら過つ。

答え：副助詞「すら」（類推） 解説：「賢人でさえ過ちを犯す」。

Q23. 識別せよ。

雨降り、雷さへ鳴る。

答え：副助詞「さへ」（添加） 解説：「雨が降って、雷までも鳴る」。

Q24. 識別せよ。

子だに親を顧みず。

答え：副助詞「だに」（類推） 解説：「子でさえ親を顧みない」。

Q25. 識別せよ。

一度だに御目にかからばや。

答え：副助詞「だに」（最小限・願望） 解説：「せめて一度だけでもお目にかかりたい」。下に願望「ばや」。

Q26. 識別せよ。

神すら助けず。

答え：副助詞「すら」（類推） 解説：「神でさえ助けない」。

Q27. 識別せよ。

草木さへ枯れぬ。

答え：副助詞「さへ」（添加） 解説：「(人だけでなく) 草木までも枯れた」。

Q28. 識別せよ。

文字**だ**に読まれず。

答え：副助詞「だに」（類推） **解説**：「文字さえ読めない」。

Q29. 識別せよ。

風の声**すら**聞こえず。

答え：副助詞「すら」（類推） **解説**：「風の声でさえ聞こえない」。

Q30. 識別せよ。

雨に風**さへ**加はりて。

答え：副助詞「さへ」（添加） **解説**：「雨に風までも加わって」。

Q31. 識別せよ。

我が身**だ**にもて余す。

答え：副助詞「だに」（類推） **解説**：「自分の身さえ持て余す」。

Q32. 識別せよ。

ありがたき友**すら**離れぬ。

答え：副助詞「すら」（類推） **解説**：「めったにいない友でさえ離れていった」。

Q33. 識別せよ。

心**さへ**乱れぬ。

答え：副助詞「さへ」（添加） **解説**：「(外的混乱に加えて) 心までも乱れた」。

Q34. 識別せよ。

しばし**だに**心安からず。

答え：副助詞「だに」（最小限） **解説**：「ほんのしばらくさえ心安らかでない」。

Q35. 識別せよ。

鬼**すら**恐る。

答え：副助詞「すら」（類推） **解説**：「鬼でさえ恐れる」。

Q36. 識別せよ。

春の風、香り**さへ**運ぶ。

答え：副助詞「さへ」（添加） **解説**：「春風が香りまでも運んでくる」。

Q37. 識別せよ。

一筆**だに**書かず。

答え：副助詞「だに」（最小限） **解説**：「ひと筆さえ書かない」。

Q38. 識別せよ。

帝**すら**心動かす。

答え：副助詞「すら」（類推） **解説**：「帝でさえ心を動かす」。

Q39. 識別せよ。

暮らし果てて、命**さへ**惜しからず。

答え：副助詞「さへ」（添加） **解説**：「暮らしが果てて、命までも惜しくない」。

Q40. 識別せよ。

影**だに**残らず。

答え：副助詞「だに」（最小限） 解説：「影さえ残らない」。

Q41. 識別せよ。

仏すら助けず。

答え：副助詞「すら」（類推） 解説：「仏でさえ助けてくれない」。

Q42. 識別せよ。

雪降り、霰さへ散る。

答え：副助詞「さへ」（添加） 解説：「雪が降って、霰までも散る」。

Q43. 識別せよ。

三日だに待たず。

答え：副助詞「だに」（最小限） 解説：「三日さえ待たない」。

Q44. 識別せよ。

古き友すら忘れにけり。

答え：副助詞「すら」（類推） 解説：「忘れにけり」＝完了「ぬ」連用＋過去「けり」終止で完了が明確。「古い友でさえ（私を）忘れてしまった」。

Q45. 識別せよ。

心、目さへくらむ。

答え：副助詞「さへ」（添加） 解説：「心が乱れ、目までも眩む」。

Q46. 識別せよ。

庵の戸だに閉ぢず。

答え：副助詞「だに」（最小限） 解説：「庵の戸さえ閉じない」。

Q47. 識別せよ。

帝の御心すら動く。

答え：副助詞「すら」（類推） 解説：「帝の御心でさえ動く」。

Q48. 識別せよ。

旅の労、心さへ疲る。

答え：副助詞「さへ」（添加） 解説：「旅の疲れに、心までも疲れる」。

Q49. 識別せよ。

せめて言葉だに残さばや。

答え：副助詞「だに」（最小限・願望） 解説：「せめて言葉だけでも残したい」。下に願望「ばや」。

Q50. 識別せよ。

涙、声さへかれぬ。

答え：副助詞「さへ」（添加） 解説：「涙が涸れ、声までも涸れた」。

標準編 / 30

【第3部】 応用編 (Q51~Q80)

文脈把握・係り結び・複合表現を伴う。

Q51. 識別せよ。

我だにかく思ふ、まして人は。

答え：副助詞「だに」（類推） 解説：「私でさえこう思う、まして他人は（なおさらだ）」。「だに～まして」の連動構文。

Q52. 識別せよ。

鬼神すら心ありや。

答え：副助詞「すら」（類推） 解説：「鬼神でさえ心があろうか（ないだろう）」。

Q53. 識別せよ。

花散り、葉さへ色変はる。

答え：副助詞「さへ」（添加） 解説：「花が散って、葉までも色を変える」。

Q54. 識別せよ。

雀の子だに羽ばたく。

答え：副助詞「だに」（類推） 解説：「雀の子でさえ羽ばたく」。

Q55. 識別せよ。

賢き帝すら惑ふ。

答え：副助詞「すら」（類推） 解説：「賢明な帝でさえ迷う」。

Q56. 識別せよ。

月隠れ、星さへ見えず。

答え：副助詞「さへ」（添加） 解説：「月が隠れ、星までも見えない」。

Q57. 識別せよ。

一夜だに会はばや。

答え：副助詞「だに」（最小限・願望） 解説：「せめて一夜だけでも会いたい」。下に願望「ばや」あり。

Q58. 識別せよ。

神仏すらかなはず。

答え：副助詞「すら」（類推） 解説：「神仏でさえかなわない」。

Q59. 識別せよ。

涙、袖さへ朽ちぬ。

答え：副助詞「さへ」（添加） 解説：「涙で袖までも朽ちた」。

Q60. 識別せよ。

名だに告げず去りぬ。

答え：副助詞「だに」（最小限） 解説：「名前さえ告げずに去ってしまった」。

Q61. 識別せよ。

都人すら驚く。

答え：副助詞「すら」（類推） 解説：「都の人でさえ驚く」。

Q62. 識別せよ。

御方様、御目さへ腫れたまふ。

答え：副助詞「さへ」（添加） 解説：「お方様、お目までも腫れていらっしゃる」。敬語連動。

Q63. 識別せよ。

せめて夢にだに見え給へ。

答え：副助詞「だに」（最小限・願望） 解説：「せめて夢にだけでもお見え下さい」。下に命令形「給へ」、願望意。

Q64. 識別せよ。

仏すらぞ知らぬ。

答え：副助詞「すら」（類推、係り結び） 解説：「仏でさえ知らない」。「ぞ〜知らぬ」連体形係り結び。

Q65. 識別せよ。

風吹き、波さへ荒し。

答え：副助詞「さへ」（添加） 解説：「風が吹いて、波までも荒い」。

Q66. 識別せよ。

言の葉だに通はず。

答え：副助詞「だに」（類推） 解説：「言葉さえ通じない」。

Q67. 識別せよ。

我が君すら疑ふ。

答え：副助詞「すら」（類推） 解説：「わが主君でさえ疑う」。

Q68. 識別せよ。

古き道、跡さへ消えぬ。

答え：副助詞「さへ」（添加） 解説：「古き道、跡までも消えた」。

Q69. 識別せよ。

せめて一目だに見せ給へ。

答え：副助詞「だに」（最小限・願望） 解説：「せめて一目だけでもお見せください」。下に命令「給へ」、願望意。

Q70. 識別せよ。

賢き人すら過つ、いはむや凡人をや。

答え：副助詞「すら」（類推） 解説：「賢人でさえ過つ、まして凡人は」。「すら～いはむや…をや」の典型構文。

Q71. 識別せよ。

御涙、御袖さへ濡らしたまふ。

答え：副助詞「さへ」（添加） 解説：「お涙で、お袖までも濡らしておられる」。敬語連動。

Q72. 識別せよ。

我が思ひだに告げざりき。

答え：副助詞「だに」（最小限） 解説：「私の思いさえ告げずにしまった」。

Q73. 識別せよ。

帝すら御心動きたまふ。

答え：副助詞「すら」（類推） 解説：「帝でさえ御心が動かれる」。

Q74. 識別せよ。

雨、雪さへ降りて、寒し。

答え：副助詞「さへ」（添加） 解説：「雨が降り、雪までも降って、寒い」。

Q75. 識別せよ。

いとはかなき夢だに見えず。

答え：副助詞「だに」（最小限） 解説：「とてもはかない夢さえ見えない」。

Q76. 識別せよ。

草木すら情けを知る。

答え：副助詞「すら」（類推） 解説：「草木でさえ情けを知る」。

Q77. 識別せよ。

風、霧さへ立ちぬ。

答え：副助詞「さへ」（添加） 解説：「風が吹き、霧までも立った」。

Q78. 識別せよ。

一句だに詠まず。

答え：副助詞「だに」（最小限） 解説：「一句さえ詠まない」。

Q79. 識別せよ。

童すら知れり。

答え：副助詞「すら」（類推） 解説：「子供でさえ知っている」。

Q80. 識別せよ。

御涙、御衣さへぬるるばかりなり。

答え：副助詞「さへ」（添加） 解説：「お涙でお衣までも濡れるほどである」。敬語連動。

応用編 / 30

【第4部】 入試レベル (Q81~Q100)

難関大頻出。文脈総合判断・古典常識を伴う。

Q81. 次の歌の傍線部「だに」を識別せよ。

せめて夢にだに見えむと祈る。

答え：副助詞「だに」（最小限・願望） 解説：「せめて夢にだけでも見えてほしいと祈る」。下に願望「む」。

Q82. 識別せよ。

親すら子に背かれて、いはむや他人をや。

答え：副助詞「すら」（類推） 解説：「親でさえ子に背かれる、まして他人は（なおさらだ）」。

Q83. 識別せよ。

涙、声さへかれて、ものも言はれず。

答え：副助詞「さへ」（添加） 解説：「涙が涸れ、声までも涸れて、ものも言えない」。

Q84. 識別せよ。

一日だに忘れず。

答え：副助詞「だに」（最小限） 解説：「一日さえ忘れない」。

Q85. 識別せよ。

神すら心動かす歌。

答え：副助詞「すら」（類推） 解説：「神でさえ心を動かす歌」。古今集仮名序を意識した表現。

Q86. 識別せよ。

風、月の影さへゆかし。

答え：副助詞「さへ」（添加） 解説：「風に加えて、月の影までも好ましい」。

Q87. 識別せよ。

我が身**だに**ながらへば、なほ世の中も見ばや。

答え：副助詞「だに」（最小限・願望） 解説：「せめて我が身だけでも長らえば、なお世の中も見たい」。下に願望「ばや」。

Q88. 識別せよ。

中宮**すら**驚かせたまふ。

答え：副助詞「すら」（類推） 解説：「中宮でさえ驚かれる」。最高敬語連動。

Q89. 識別せよ。

雪降り、霜**さへ**深し。

答え：副助詞「さへ」（添加） 解説：「雪が降って、霜までも深い」。

Q90. 識別せよ。

夢**だに**おぼつかなし。

答え：副助詞「だに」（最小限） 解説：「夢さえもおぼつかない（夢でも会えそうにない）」。

Q91. 識別せよ。

鬼神**すら**まれにあらはる。

答え：副助詞「すら」（類推） 解説：「鬼神でさえ稀にしか現れない」。

Q92. 識別せよ。

御涙、御簾**さへ**しほれて。

答え：副助詞「さへ」（添加） 解説：「お涙で、御簾までもしおれて」。

Q93. 識別せよ。

せめて影**だに**慕はばや。

答え：副助詞「だに」（最小限・願望） **解説**：「せめて影だけでも慕いたい」。下に願望「ばや」。

Q94. 識別せよ。

我**すら**かくぞあやしき。

答え：副助詞「すら」（類推、係り結び） **解説**：「私できえこのように不思議である」。「ぞ〜あやしき」連体形係り結び。

Q95. 識別せよ。

川の音、心**さへ**澄む。

答え：副助詞「さへ」（添加） **解説**：「川の音で、心までも澄む」。

Q96. 識別せよ。

一瞥**だに**くれず。

答え：副助詞「だに」（最小限） **解説**：「ひと目さえくれない」。

Q97. 識別せよ。

御目**すら**くらまれたまふ。

答え：副助詞「すら」（類推） **解説**：「お目までもくられる」。敬語連動。

Q98. 識別せよ。

暑く、汗**さへ**流る。

答え：副助詞「さへ」（添加） **解説**：「暑く、汗までも流れる」。

Q99. 識別せよ。

一行だに書かれず。

答え：副助詞「だに」（最小限） 解説：「一行さえ書けない」。

Q100. 次の文の3つの副助詞をそれぞれ識別せよ。

神すらかしこむ世に、我だに惑ふ、心さへ乱る。

答え：「すら」類推／「だに」類推／「さへ」添加 解説：「神でさえ恐れる世に、私でさえ迷う、心までも乱れる」。3副助詞の総合判別問題。

入試レベル /20

採点振り返り

- 基礎 (Q1~Q20) : /20
- 標準 (Q21~Q50) : /30
- 応用 (Q51~Q80) : /30
- 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- 合計 : /100

あとがき

副助詞「だに・すら・さへ」識別の核心： - 「だに」「すら」 → 類推（～でさえ） - 「さへ」 → 添加（～までも） - 「だに」は願望表現とセットで「せめて～だけでも」（最小限） - 「すら～まして／いはむや」、「だに～まして」の **連動構文** に注意

接続だけでは決まらないので、**意味で判断** すること。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太